

交付対象事業の 名称	事業概要	K P I				令和5年度の主な取組と K P I への影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R5目標	R5結果			
伝統文化を活用した観光コンテンツ造成のための施設整備計画	からくり文化の発信拠点となる施設を整備し、観光振興の場・にぎわい創出の場として活用することにより、交流人口の増加を図るとともに施設を利用した体験型観光メニューの造成や、犬山祭、からくりに関連した商品の開発・販売などにより市内の観光収入の増加を目指す。事業効果を高めるための取組として、文化史料館本館からの動線に配慮したスロープの整備（効果促進事業）、北駐車場の改修（単独事業）、他の拠点施設における犬山祭関連ミニライブラリースペースの整備（単独事業）を計画しており、犬山城下町全体の活性化を図る予定である。	① 施設を活用した売上金額（グッズ販売、特産品販売、イベントなど）	千円	1,925	2,143	【からくり文化の情報発信】 令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、来館者数は順調に回復し、からくり文化を広めることができた。また、SNSなどを通じて積極的なからくり文化の情報発信を行った。 【地元業者や市民団体等が開発した特産品・グッズ等の紹介・販売】 地元業者や市民団体等から販売手数料を納めてもらい、72品目のグッズを文化史料館で販売した。からくり人形の愛好者や犬山祭のファン層から好評を得ている。 【新たな観光客層の開拓】 外国人観光客は前年度に比べ増加している。小中学校による団体見学も積極的に受け入れている。	【からくり文化の情報発信】 令和2年度に開始したSNSなどの活用による情報発信を継続し、積極的なPRに努める。 【地元業者や市民団体等が開発した特産品・グッズ等の紹介・販売】 現在すでにグッズの品目は充実しているが、売上を伸ばすための試みとして、販売スペースのレイアウト替えなど販売方法の改善を行う予定。 【新たな観光客層の開拓】 観光客層に占める若者の割合を増やすために、より親しみやすい展示や解説に努め、SNSを活用したPRを継続する予定である。また、観光ツアーや小中学校による団体見学は積極的に受け入れる方針である。	地方創生に相当程度効果があった
		② 拠点施設（文化史料館・どんでん館）を活用したイベント開催における施設集客数（延べ人数）	人	8,989	8,246			
		③ 施設をルートに入れた観光ツアー件数	件	48	60			
コミュニティ参加促進 交流を通じて定住したくなる地域の拠点整備事業	東地区の地域コミュニティ拠点施設「東ふれあいセンター」について、利用者ニーズ、施設の問題点等を洗い出し、地域の若者を含めたワークショップを重ねてきた検討結果を反映し、地域、住民にとってより魅力的な施設となるよう整備する。	① 東ふれあいセンターの年間来館者数（人）	人	1,887	841	【東ふれあいセンターに関する情報発信事業】 東ふれあいセンターにおける各種イベントの開催、ホームページ等による情報発信により、市民に対して東ふれあいセンターに関する周知することができた。（利用者数5,710人） 【犬山市コミュニティ推進地区助成金事業】 コミュニティ推進地区助成金を交付し、芸術祭・作品展、防災職講習会、各種教室等東ふれあいセンターを活用した事業を展開したことで、KPI②が達成できた。 【東ふれあいセンター敷地内ピザ窯整備事業】 ピザ窯を活用した交流会を開催し、東ふれあいセンターの利活用を図ることができた。 【東ふれあいセンター敷地内グランドゴルフ練習場整備事業】 グランドゴルフ大会を開催し、東ふれあいセンターの利活用を図ることができた。	【東ふれあいセンターに関する情報発信事業】 引き続き、当該施設の管理・運営を担う東コミュニティ推進協議会と連携し、ホームページ等による情報発信を行い、来館者数の増加に努める。 【犬山市コミュニティ推進地区助成金事業】 引き続き、助成金事業を実施し、地域の交流拠点としての事業を支援していく。 【東ふれあいセンター敷地内ピザ窯整備事業】 引き続き、ピザ窯を活用した事業を展開することで、東ふれあいセンターの新たな魅力創出を図っていく。 【東ふれあいセンター敷地内グランドゴルフ練習場整備事業】 引き続き、グランドゴルフ練習場を活用した事業を展開することで、東ふれあいセンターの新たな魅力創出を図っていく。	地方創生に相当程度効果があった
		② 東ふれあいセンターでのイベント開催数	人	6	49			
		③ 拠点以外で地域コミュニティ団体が実施するイベント等への参加者数	件	210	976			